

上述のどの場合も、その機構にはほぼ同様の傾向がある。第4図および第5図に例として示すように、トラフが接近すると、その前面で等圧線の走向は南分を持ち、富士山頂の風向はWまたはWSWよりSW、SSWと変化し、暖気が移流し、著しい高温となる。特に、12～14日は日本海をトラフが通過し、暖気の流入が著しく、SWの下で -4°C 以上の高温が出現している。また、トラフの軸付近が通過するとき、Wが出現することがある。(22～23日、28～29日)なお、トラフが通過すると、WNW(NW)が出現するが、寒気のほり出しは著しくない。

トラフが通過するときの風向別平均気温と風向出現度数を示すと、第6表のようになり、WSWが出現度数が最も多く、かつ、最も高温で、 -7.9°C を示し、SWもほぼ等しい高温となっている。また、Wも出現度数が多く、かなり高温であることは注目してよい。(他の暖冬の年は多少異なり、暖冬第2位の1957年では不明瞭であるがWSW、暖冬第3位の1950年ではWが暖気の主流をなす。)

1966年も、トラフの前面において、主にWSWおよ

びSWが出現しているが、それらの気温は平年に比して低温である。

6. 結語

以上の解析により、寒冬および暖冬の典型例として、1963年、1964年の富士山頂における寒気および暖気移流時の風向別気温の特徴と機構とが明らかになった。

寒冬、暖冬といっても、年による特徴があるので、他の年についても考察する必要があるが、これについては、別稿で述べることにする。

終りに、貴重な資料を閲覧させて戴いた三島測候所、富士山測候所および静岡気象台に厚く御礼申上げる。

参考文献

- 1) 山本三郎, 1958: 富士山の気象, 天気, 5, 43～48.
- 2) 気象庁, 気象要覧(1963年, 1964年, 1966年, 各1月).
- 3) 日本気象協会, 1967: 気象年鑑.
- 4) 東京管区気象台, 1963: 東京管区異常気象報告第4巻第1号.
- 5) 東京管区気象台, 1964: 東京管区異常気象報告第5巻第1号.

第四回国際大気電気会議決算書

旧国際大気電気会議実行委員会よりの要望がありましたので、同会議の決算書を掲載します。なお電気事業連合会(100万円)以下39社の寄付者一覧表は紙面の都合により省略いたします。

第四回国際大気電気会議決算書

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
気象学会 寄付金 (東京都内)	100,000 2,745,000	会議費	847,809
寄付金 (東京都外)	450,000	旅費	1,054,340
		印刷費	87,624
		消耗品費	197,105
		通信運搬費	91,364
		役務費	782,653
		借用又損料	211,300
		募経費	22,805
計	3,295,000	計	3,295,000